

ショート動画台本 作成マニュアル

このマニュアルは、Instagram リール・TikTok・YouTube ショート用の台本を作成する際の共通ルールです。

目的は、最初の0.5秒で興味を引き、最後まで見てもらい、来店・購入・問い合わせにつなげることです。

1. 台本の基本構成

基本は、以下の順番で作成します。

① 強いフック

↓

② 続きが気になる理由

↓

③ 商品・サービス・体験の具体的な内容

↓

④ 他との違い・意外性・こだわり

↓

⑤ 結論

↓

⑥ 来店・行動につながる締め

目安は30～45秒程度です。

2. 最重要は「最初の0.5秒」

動画の最初から、

「こんにちは、〇〇です」

「今日は〇〇をご紹介します」

のような入り方はしません。

最初に、視聴者が

「え、どういうこと？」

「それ知らなかった」

「続きが気になる」

と思う言葉を入れます。(結論から入る)

フックの考え方

例えば、

「その頼み方、損してない？」

「実は、知らない人が多いんです。」

「これ、普通じゃありません。」

「みんな驚きます。」

「なんでかっていうと...」

「〇〇だと思ってませんか？」

「高知に〇〇な店があるらしい...。」

「正直、廃業の危機でした。」

「知らずに頼むと損します。」

など。

毎回同じ言葉を使うのではなく、その動画で最も気になるポイントをフックにします。

3. お店が言いたいことより、お客様が知りたいこと

台本を作る時は、

「このお店は何を伝えたいか」

だけではなく、

「初めて見るお客様は何を知りたいか」

を優先します。

例えば焼肉店なら、

「この肉にこだわっています」

より、

「なんでこんなに厚いのに柔らかいの？」

の方が動画になります。

飲食店なら、

「創業〇年です」

だけではなく、

「普通のお店と何が違うの？」

まで考えます。

※お店のことを知らないと思うので、できればお客さん目線で知りたい情報をたくさん聞いてください！

4. 1文は短くする

ショート動画では長い文章を使いません。

悪い例：

「当店では職人が一つひとつ丁寧に肉の状態を確認しながら最適な焼き加減で提供しています。」

良い例：

「この肉、スタッフが焼きます。」

「なんでかっていうと、厚切り肉は焼き加減が難しいから。」

「一番うまい瞬間を、スタッフが見極めます。」

話して聞き取りやすい長さに区切ります。

5. 説明しすぎない

映像で分かることは、言葉で全部説明しません。

例えば、分厚いタンを映しているなら、

「こちらが分厚くカットされたタンです」

ではなく、

「見て、この厚さ。」

で十分です。

料理を焼く映像なら、

「ここからが違います。」

など、映像を見たくなる言葉を添えます。

6. 比較できるものは比較する

ショート動画では、比較が非常に使いやすいです。

例えば、

普通のタン VS 伝説タン

生鰹 VS 冷凍鰹

一般的な焼肉店 VS ここから

辛いキムチ VS ご飯に合うキムチ

など。

「何が違うのか？」を見せることで、最後まで見てもらいやすくなります。

7. 数字・価格・限定は積極的に使う

使える情報がある場合は、具体的に出します。

例えば、

「通常1,980円が、この日だけ990円。」

「数量限定。」

「創業1969年。」

「男4人で検証します。」

数字が入ると、内容が具体的になります。

ただし、確認できていない数字は絶対に追加しません。

8. 最後まで答えを少し引っ張る

最初に全部答えを言わないようにします。

例えば、

「高知市に『絶対寝させる』と噂のドライヘッドスパがあるらしい...。」

↓

「本当に寝るのか男4人で検証します。」

↓

施術シーン

↓

「結果。」

↓

「和泉、敗北。」

という流れです。

視聴者に「結果を見たい」と思わせます。

9. 最後は自然に来店につなげる

毎回、

「ぜひご来店ください！」

だけで終わらせる必要はありません。

動画の内容に合わせて、

「あなたは普通派？伝説派？」

「高知に来たら、生の鰹を。」

「寝ない自信がある人、挑戦してみてください。」

「この日だけは、遠慮せず食べてください。」

など、余韻が残る締めにします。

(動画の意図がある場合はこの限りではありません))